



卓 話



「これからの英語教育」

横浜国立大学大学院工学府

客員教授 安藤 吉隆氏

現在の日本の英語教育の実態は、アメリカの英語（米語）が主体となっています。しかしながら、同じ「英語」であっても、歴史のある英国の英語と米国での英語ではかなりの相違があります。



例えば、ファーストフードなどでの持ち帰りをイギリス英語では、Take Away。アメリカ米語では、Take Out。地下鉄をイギリス英語で、Underground。アメリカ米語では、Subway。タクシーの運転手にここで止まってという時にはイギリス英語で、Pull Up Here。アメリカ米語では、Stop Here。頭上に注意はイギリス英語で、Mind your Head。アメリカ米語では、Watch your Headとこのように違います。又同じ単語でも、Wonderfulはイギリス英語で「不思議だ」アメリカ米語では「素晴らしい」を、Fantasticはイギリス英語で「現実離れした、途方もない」、アメリカ米語では「素敵だ」を意味します。

また英語という言葉の品格と言う観点からも、アメリカの米語よりもイギリスの英語の方が格調高いということは否めない事実だと思います。しかしながらそのイギリスの英語も、有名な「My Fair Lady」という映画でご存知の通り、ロンドンの中に於いても、階層によって言語に格差があるということも事実です。

私が横浜国立大学大学院工学府で教えています講義は「Presentation English」ですが、そこでは日本を含む国際社会でこれから活躍する実務型の技術者・研究者にとって不可欠なプレゼンテーションである英語の実用、技法、実践能力の習得を目指しております。中～上級のビジネス英語・米語を平行して学び、これを基盤にビジネススキルと、プレゼンテーション能力の向上を目的としています。生徒の発表能力、交渉能力、質疑応答の合理性や理論性、ビジネスに於ける問題意識、戦略性等々。これらの授業や、レポート提出、パワーポイントでのプレゼンテーション等を通じて実践能力を学んでいく事で、最終的にはスキルアップを目指しております。生徒は、博士課程の前期の学生80名で20名ずつ4クラスに分けた編成でしております。10%は外部から(社会人)の参加です。尚、講義の詳細はシラバスをご参照下さい。

私の講義は新しい形態を目指しております。

1. 英語と米語の両方からの教育
2. 先生と生徒の枠を超えた教育—映画「パッチ アダムズ」のモデルとなった医者は、患者の心と生命のための真実の医療を求め続け、愛情を持って、笑いと癒しを与え、患者の立場にたった医療を行なっている人である。私も同様に講義を通じて、先生と生徒という垣根を越え、世界中の人々とコミュニケーションを取って、将来活躍していく人材形成を目指している。

また海外にインターンシップ枠を広げて、6ヶ月程度の単位で学生を送っています。今後に繋がればと考えております。